

## 談話室



### 石橋湛山という人物

川面忠男

(元日本経済新聞記者)

首相になって3カ月後に肺炎で辞任した石橋湛山については潔い政治家だったという印象が残っているだけであったが、本講演を聴き、このような政治家が今の日本には求められていると思った。

司会者は「石橋湛山を語るのに最も適した人だ」と浅野講師を紹介した。

政治家としての石橋湛山が最も興味深かった。湛山は静岡2区から衆院選に出馬した際、選挙民には地元の利益のためではなく、田中、日ソの平和実現に努める」と言った。これには地元の人たちはびつくりした。それでも地元で人望のある人たちが応援し当選できた。

石橋内閣は昭和32年12月に発足、湛山は記者会見で「民主政治は往々にして国民の皆さんのご機嫌とりの政治になる。私は皆さんのご機嫌を伺うことはしない。皆さんにずいぶん嫌がられることをするかもしれないから、そのつもりでもらいたい」と発言した。これは反って国民の共感を呼び、湛山ブームが起きた。

湛山は金には無関心だった。地元のことも国のことを考えた。その国も手段であつて目的は国民を幸福にすることにあつた。選挙区・新潟の公共工事を手厚くした田中角栄とは違つていた。いわゆる政治屋という意味のポリティシャンではない。政治屋は陳情に応える見返りに票、もしくは金を求める。田中角栄の金権政治がその最たるものだが、湛山は全く反対、私利私欲がなく、党利党略もないステーツマン型の政治家だった。

米国のトランプ大統領は自分を支持する勢力に媚びるポピュリズム政治家だが、これと全く違う

のが石橋湛山。自分の選挙に有利な政策ではなく日本、ひいては世界を考える政治家だった。国際平和主義が信条であつた。

湛山にはいくつもの顔がある。一つが思想家。医者を目指して旧制一高を志望したが、入試に失敗して早稲田に入り、田中王堂教授に哲学を学んだことがよかつた。田中は米国の哲学者、デューイについてプラグマティズムを研究した。湛山が実践する政治家になつたのはその影響である。

また日蓮宗に帰依する有髪の僧であつた。日蓮の三大誓願「我れ日本の柱とならむ、我れ日本の眼目とならむ、我れ日本の大船とならむ」という言葉が好きだった。国を救うという大志に共感したのだ。旧制山梨県立第一中学(現甲府一高)の校長の影響で札幌農学校のクラーク博士の言葉「少年よ大志を抱け」も好きな言葉だったという。

日蓮のように強い信念を持ち妥協しない政治を行った。昭和21

年(1946)、吉田茂内閣の蔵相になつたが、米国に従う吉田と衝突している。米国は米軍のためのゴルフ場建設や将兵夫人のパーティ費用などに日本の予算を使ったが、湛山は国民が飢えているなどと反対、翌年には公職を追放されている。

大日本主義でなく小日本主義が持論。これは植民地を持たず貿易立国が日本の道というもの。先の戦争中に伊勢神宮に詣でたが、帰りの汽車で同行者に何を祈つたかと問われ「早く日本が負けるように」と答えたそう。旧満州(中国東北部)の植民地化は日本の利益にならない。それよりはモノをつくり、欧米に輸出した方がよいと考えていた。

敗戦直後、東洋経済新報に「これで日本はよくなる」という記事を書き、日本経済新聞の論客・小汀利得に批判されたが、その後の日本は湛山の言う通りになった。湛山はデータをもとに分析、予測する手法で先が見えるジャーナ

リストでもあった。

ジャーナリストとしては「ぶれな  
い」座標軸を持っていたという。デ  
ータを重視した論理もそうだが、  
個人主義、自由主義、国際平和  
主義などが挙げられる。個人主  
義は「個の確立」、つまり自分が何  
をやりたいかということに自覚す  
るものだ。その意味では自分が国  
家、国民のために何をしたいか、  
自覚している政治家がいるよう  
には見られないのが現実だ。

石橋湛山は肺炎にかかり国会  
に出られないとして首相を3カ月  
で辞めた後、昭和34年(1959)に  
訪中し周恩来首相と会談、日  
米中ソ平和同盟を提唱した。当  
時75歳。79歳になって再び訪中、  
毛沢東に会い、さらに翌年には訪  
ソし、フルシチョフと会談。これも  
実践哲学のなせるところであった。  
浅野講師はレジユメの1番目に  
石橋湛山の現代的意義を挙げ  
た。厳しさを増す時代環境への対  
応」などだが、石橋は今年、来年  
とか短期ではなく長い目で物事を

見ると述べた。確かに国際情勢の  
変化と日本の将来を考えると、  
今後の10年をどうするかという  
視点が重要である。

また最後に「石橋湛山、今、あ  
りせば」として14の問題にどう対  
応するか、についても述べた。尖  
閣、竹島は「棚上げすべし」「憲法9  
条維持」「国連重視の平和外交」  
「大国を目指すな」などが、いず  
れも共感できる。(2017.7.25)

(早稲田・政経39)

### 感想片々

#### 小林陽江

素晴らしい人物像を描き出し  
て下さいました。石橋湛山を見る  
浅野先生の眼差しに愛が溢れてい  
ました。(一般)

#### 阪崎高志

20日の貴会の講話を感銘深く  
拝聴いたしました。戦前、金解禁

に当たり政府の「旧平価」での解  
禁に、盟友の高橋亀吉とともに  
反対の論陣をはり日本

国中を遊説したこと、結果は湛  
山達の予想通り、円高による輸  
出不振・輸入急増で政府は再び  
金輸出を禁止せざるを得なかつ  
た。こんなことを思い出しなが  
ら浅野講師のお話を拝聴いたしま  
した。もし、病に倒れることが無かつ  
たならば、とも思ったりしました。

#### 松井和明

政治の劣化が進む中、時宜を  
得た企画として石橋湛山をテー  
マに永年、新報社や経済倶楽部の  
中枢にあつた浅野講師にレジユメ  
など周到な準備をいただき、湛山  
の実像や新報社という会社、湛  
山ありせばかく語るなど、熱く、  
興味深い、教訓的な内容であつた。  
女性参加者は講師のソフトで  
温かい人物を、シビアな経済倶楽  
部会員は内容を講話は後になる

ほど良くなつた)、早稲田出身の  
初参加者2名は今後の思いを(こ  
の会は素晴らしい、今後とも出席  
する)、それぞれの観点から高評  
価してくれた。

(事務局・昭和39)



浅野講師

## 書架



### 『大正デモクラシー』

成田龍一著 16年10月  
第13版 岩波新書

慈海

今月の第84回新三木会で石橋湛山を取り上げたが、湛山は「大正デモクラシー」という時代が生んだ傑物」ともいえる。本書で、大正デモクラシー、その象徴、過酷な植民地の実態などを見ておきたい。

### 大正デモクラシーとは何か

多彩な言論、社会運動が開き、政党内閣成立へと結実した時代。また、植民地支配

が展開する時代でもあった。

帝国の下で「民衆」が登場、1905年（明治38年）日比谷焼打ち事件、大正政変、米騒動、普通選挙の実施、満州事変1931年（昭和6年）に至る25年間を指す。日露戦争後の都市民衆騒擾をきっかけに民本主義として対等。第一次世界大戦とロシア革命、米騒動により加速、「改造」の動きを生み出した。雑業層や旦那衆、労働者・農民、女性、被差別部落や植民地の人びとがそれぞれの立場から *Democracy* を掲げ社会変革を訴えた。各層の主張は「日本人」、「国民」と重ねられてもいた。白樺・『青鞥』など旧思想を踏み出す。この動きにより普通選挙法と治安維持法も創出される。

### 大正デモクラシーの象徴

吉野作造と「民本主義」.. 吉野

はクリスチャン、東大政治学教授、朝日新聞論説委員。

「民本主義」とは、一般民衆の利益・幸福・その意向に重きを置く政権運用上の方針。デモクラシーの訳語。国家主権が人民にある民主主義との訳語は不相当と見た。内政的には自由主義を主張、国民の民主的な自覚向上に資するが、対外的には植民地領有や膨張主義を容認、帝国とのきっぱりした態度が取りにくく歴史的評価は揺らぐ。

石橋湛山と「小日本主義」.. 東洋経済新報の三浦鍊太郎と石橋湛山は「大日本主義か、小日本主義か」を問い、大日本主義は帝国主義、国策としての海外進出一本槍、小日本主義は、内治の改善、個人の自由と活動力の増進、満州放棄を主張。台湾・朝鮮・樺太・租借地の関東州は国民的大浪費、軍閥、軍人政治も被害

と。良き国民国家を目指す。

特に植民地の実態・朝鮮や台湾という植民地とは何であったのか、本書で新たに知った事実も多い。朝鮮では土地や米を取り上げられやむなく日本に「出稼ぎ・移住」、「未熟練労働に従事」、「在日韓国人は大部分農民」であるという。台湾でも過酷な税、警官の横暴など台湾総督府に対する農民による武力抵抗運動が続発、15年の「抗日蜂起」は失敗、866人の死刑囚を出す。武者小路実篤は「数百人を処刑して平気でいられる人間の顔が見たい」と総督府を批判。

（一橋・39社）

